

要 望 書

和歌山県知事
仁坂吉伸殿

和歌山市三番丁6番地関西電ビル4階
金原法律事務所内
「子どもたちの未来と被ばくを考える会」
代表 芝野絢子(他3名)

いま日本は、戦後最大の危機に直面しています。このような不安が大きい時代に和歌山県知事として、私たちの生活、環境など多方面で健全な施策を実行して下さることに感謝申し上げます。

とりわけ、昨年3月の東日本大震災により発生した瓦礫の広域処理受け入れへの政府からの要請を貴殿は明快に拒否をして下さり、私たちは本当に安心をし、このような首長をいただく和歌山県を誇りに思っています。

しかしながら、今年3月22日に和歌山市議会が瓦礫受け入れの決議を全会一致で可決したことを知った、小さな子どもを持つ母親たちが中心になり勉強会を開いたり全国からの情報を集めて、瓦礫受け入れの危険性を深く知りました。そして、子どもたちに余分な被ばくをさせないように、安心して生きられる未来をつくるために「子どもたちの未来と被ばくを考える会」を立ち上げました。

私たちはなんとしても子どもたちの健康を守りたい、希望をもてる未来を子どもたちに手渡したいと願っています。被災地への支援は避難者を温かく受け入れること、安全な食料を届けることなどさまざまな方法があると考えています。現に、東日本から和歌山に避難してこられ、移住という選択をされたご家族も多数おられます。その方々の拠り所としても和歌山を守り、今後とも私たちの信頼できる県政を続けていただきますように心よりお願い申し上げます。

なお、過日の新聞にも掲載されましたが、使用済み核燃料中間貯蔵施設を関西でという受け入れ打診や、「放射性物質汚染対処特措法施行規則の一部を改正する省令」の変更などにつきましても私たちは行政の動向に注目し、和歌山県民を安全な方向に舵取りをして下さることを信じ、重ねて敬意を表するとともに、引き続きのご英断をお願いいたします。

2012年4月26日